

三重県 20カ所 2000人超

「全国100万人行動」に呼応して三重県では8月29日と30日、本紙が把握しただけでも20カ所で集会やパレード、スタンディングアピールなどが行われ、2000人以上が参加しました。

命と対極にある法案

各地で「戦争反対」のデモが行われている。

富山

戦争を許さない「女前広場」で開かれました。県内の元大学教授のレッドアクション

どの行動も幅広い市民が参加。議員も日本共産党だけでなく民主

は日本共産党の各支部が独自に宣伝行動を行いました。
四日市市では、200人近くが近鉄四日市駅ふれあいモールを埋め尽くしてアピールした共同行動とは別に、連合三重が2000人規模の集会を開いて戦争法案の廃案を訴えています。

員、医師、医療団体、市民団体の代表ら10人の女性呼びかけた行動で、180人が参加しました。

リレートークで、県民医運事務局長の足立千恵子さんは、「戦争法案が通ると、医療従事者は戦争に駆り出されることになる。命を守ることに対極にある戦争法案は必ず廃案にし、外交にもっと力をいれないといけない」とのべました。

集会後、参加者は「戦争法案、絶対反対」「国民無視する総理は知らない」とコールし、富山駅南口前の目抜き通りを行進しました。

参加した市村真知子さん(81)は、「戦争中は食べ物がなくてひもじかった。戦争が終わって、電気がつけられるのがうれしかった。孫にはそういう思いを絶対させたくない」と話していました。

岐阜

新日本婦人の会岐阜

支部は8月28日夜、名鉄岐阜駅前で戦争法案に反対するレッドアクションを行いました。名古屋から来た男性(65)は「戦争は二度としてほしくない」と戦争法案反対の請願に署名。市内の女性(70)は「決めた議員が率先して戦地にいけばいい」。女子高校生(16)の2人は「野球の先輩が南の海に散った話を先生から聞いた。プロでの活躍が期待されている母校のエースも行くようなこと、そんなの嫌だ」と次々署名しました。支部は9月も毎週金曜行動を続けていくことを決めています。



戦争法案反対の請願に次々と署名する高校生
11月28日、岐阜市